

[第 104 回藤樹人間学塾のご案内]



皆さま

令和 2 年 3 月

NPO法人高島藤樹会

いつもありがとうございます。

本塾は藤樹先生の教えを学び、人間いかに生きるべきかを共に考える形で進めています。

3 月は 8 名の参加でした。『中庸解』の第 20 章の続きです。「学を好むは知に近く、力行は仁に近く、恥を知るは勇に近し。この三者を知れば、即ち身を修める所以を知る…」。

惑いの道理を心得て徳に進むために学を好めば、知(良知)に近づく。利己の障がい心力を出して克服することができれば仁(思いやりの心)に近づく。人欲に引き回されることが恥であることを知ることができれば勇(人が本来持っている本心)に近づく。知、仁、勇の三徳が得られれば、自然と身を修めることができる。身が修められれば人を治められる。人を治められれば、天下国家を治めることができる。

しかし、私たちが利己心や人欲を克服することはたいへん難しいことです。そこで、「致知」に掲載された、三千院門跡門主 堀澤祖門師の特別講話「杵を破る」を図解して説明しました。

私たちが暮らしている世界は「二元相対」(現象界=色)の世界です。そこでは人間誰も自分が一番大事です。そこでは争いごとが絶えません。国と国との戦争にもなります。

これを打破するためには、二元相対の杵を破ります。そうすると「一元絶対」の世界になります。これは、「悟り」=「空」を通ることで実現します。空体験する方法は、「空っぽになれ、空っぽになれ」と頭のとっぺんから順番に空っぽにしていきます。空が分かったら一元絶対になって自分と他人の区別がなくなります。お釈迦さま曰く「愚か者は自分の子供だ、自分の財産だと思い悩む。ところが自分自身が既に自分のものではないではないか。どうして自分の子供だ、自分の財産だといえようか」。『孝経』にも「わが身に備わっているものは、心も性(本性)も体も毛髪も皆、親の心・性・体・毛髪を受け継いだものなので、身体の本をただせば自分のものではなく、親の身体なのだ」と記されています。親も同様ですからひいては私たちは大宇宙の分身であるということです。

一元絶対が目覚めたら世界に広めていこうと決意することが肝要と堀澤師は述べられています。お釈迦さまは悟られた後、50 年余り布教活動が続けられ 80 歳で没されました。

フリートーカーでは、「二元相対の世の中では争いが絶えないことがよく分かった」、「この学びは奥が深い。哲学を学んできたが、現代の分断した世の中をまとめるには、正・反・合の弁証法的対応がよいと思う」等の意見が出ました。

学ぶは愉し！あなたも参加されませんか。

■ 日 時 令和 2 年 4 月 5 日(日) 15 時～17 時

■ 場 所 安曇川公民館(高島市安曇川町田中89)

■ テーマ 「藤樹先生に学ぶ人間学」

テキスト 中江藤樹著・西晋一郎通訳『中庸解・通訳』第 20 章 p.243～

塾 長 田中 清行 (090-1026-7882)